



# 法の光 (法光山 妙勝寺 通信)

No.198-2

2016年(平成28年)

6月 1日発行

文責 大岩 清人

— 成功は自信につながり、失敗は知恵につながる(インドことわざ) —

ゆりあげ

## 閑上中学校解体始まる



東北慰霊で度々訪れた宮城県・名取市・閑上中学校の解体工事が始まりました。

最初にこの中学校を訪ねた時は、校舎内には多くの泥が残り、校庭の隅には漁船が打ち上げられていました。

教室には卒業式を祝う言葉が残され、その黒板には津波が来たところに白い線がくっきりと見て取れました。

震災後に避難所として使われていたまま放置されていたのです。

閑上地区は土地のかさ上げ工事が進んでいます。校舎の所も同じ工事が行われるのです。その為に、解体されるのです。

玄関前に設置された慰霊の机やその後建立された黒御影石の慰霊碑も保存されることでしょう。

少し離れた閑上小学校も被害を受け今取り壊されています。

かさ上げされた新しい土地に小中一貫校が建設されるとのことです。

少しずつ生きる世界として生まれ変わります。校舎の解体は子供を亡くされた親御さんや地元の人にとって複雑な思いでしょう。

しかし、子供たちの賑やかな声が聞こえない学校は、命を失った子供たちも望まない



いのではないでしょうか。彼らも工事の行方を見守っていることでしょう。

ニュースより

NHK のニュースを見て驚いたことがあります。日本から輸出しようとしたイチゴ・ミカンを始め多くの農産物が諸外国に輸出出来ないというのです。

その原因は残留農薬。

台湾にイチゴを輸出したのですが残留農薬の為に廃棄処分になったのです。日本で認められている基準より遙かに厳しいというのです。

チョット驚きです。我々が信頼して口にしている国産農産物の基準がゆるいということなのです。

日本では傷の無い、虫食いの無い、きれいな農産物が好まれます。

きれいな農産物の裏に、虫を寄せ付けない農薬が依然として多く使用されているということでしょう。

諸外国の残留農薬基準を調べてみると、日本と同基準の物も多いのですが総じて厳しい基準です。USA・EU・カナダ・台湾・ロシア・西アジア諸国などの国々です。

ミカン農家は国内向けと EU 向けに分けて栽培し始めています。それは農薬の違いです。輸出向けは残留農薬の少ない農薬に切り替えているのです。であれば、国内向けも同じように栽培すればと思います。

そこに立ちほだかるのがきれいな農産物愛好家の存在でしょうか？

近年アレルギーや化学物質反応に苦しむ人が多くいます。その原因の特定は難しいのですが、口にする物の影響は大きいと思わざるを得ません。



除菌をうたい文句にきれい好きを押し進めています。

その最たる人が潔癖症でしょう。

色々な複合原因でアレルギーや化学物質反応を起こすのかもしれないと考えてしまいます。

きれいなだけでは無く安全な農産物愛好家になりたいものです。見た目が悪い物は価格が低かったり商品にならないという現状があります。諸外国の観点がその中身にあるのに対し、日本の観点は見た目の外見にあるように思えます。

法事の後で「昔は法事のお経が長かったな～2時間くらいかかった気がする・・」「そうですね。近頃は長いといやがられる傾向にあります。2時間くらい・1時間半くらい・1時間くらいの中から選ぶとしたら・・。」「1時間くらいが良いと思います。長いとしんどいな～という気持ちが出てきて、かえって良くないと思います。」